

「tovo™」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2019年2月現在までの総寄付金は「¥7,339,466」となりました。**10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目標にしています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

チャリティー缶バッジなどのお取扱店 (2019.3 現在)

青森県内

- ▶青森市 A-Factory／アトリエカヌー／もぐらや／oppen plaza sora／oppen plaza sena／CAFE 0371／カフェ・デ・ジターヌ（古川店）
- ▶弘前市 ホームワークス4th／津軽工務社／バンブーフォレスト／中国料理豪華楼／Garret
- ▶五所川原市 タイムスライズ
- ▶黒石市 木田理容所

青森県外

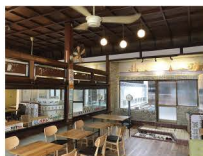
- ▶東京都（杉並区） 大怪店
- ▶岡山県岡山市 レストランMint



LINE@
はじめました。



京都で「第2回トヴォマルシェ」開催！



2019年4月14日（日）11:00～16:00、京都で廃業した銭湯を改装した素敵なスペース「九条湯（京都市南区東九条中御霊町65）」にて、京都で2回目となる「トヴォマルシェ」が開催！昔懐かしい銭湯の雰囲気が残る会場で、音楽フリーライブやパフォーマンス、各種出店と大人も子どもも楽しめるチャリティーイベントになります。詳細はトヴォのウェブサイトや、トヴォの公式京都支部トヴォ Facebook Page (@tovo2011.kyoto) にて。

フリーペーパー「tovo plus™」



「tovo plus」は、tovoの発行する月刊のフリーペーパーです。月に1度、青森県内に住むご家族のお話を伺い、311当時の様子、それ以降の考え方や生活の変化を時間の経過と共に記し続けています。100号、100ヶ月、100家族が目標です。

おかげさまで、残り16号、16ヶ月、16家族。毎月のご支援に深く感謝申し上げます。

※1年間（12号）の定期購読（1,800円）を承ります。



「ブックログのペーパー」にてPDF配信中！

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

フリーペーパー「tovo plus™」配布ご協力店

青森県内

- ▶青森市 A-Factory／アピオあおもり／肴ダイニング心／ふたば写真館／もぐらや／oppen plaza sora／oppen plaza sena／ヒーリングサロン LULU／アトリエ CANOE／カフェ・デ・ジターヌ／SUBLINE／miageru．／cafe 0371／OOLJEE／レストラン Tera
- ▶弘前市 まちなか情報センター／弦や／弘前市役所／chicori／バンブーフォレスト／太平洋画房／Garret
- ▶黒石市 木田理容所／おかしのおくら／津軽黒石 こみせ駅
- ▶五所川原市 むすぶカフェ えいぶりる
- ▶つがる市 HMV イオンモールつがる柏
- ▶八戸市 Saule Branche Shinchō
- ▶平内町 BASE CAMP
- ▶野辺地町 自遊木民族珈琲
- ▶東北町 TBT 英会話教室

青森県外

- ▶山形県 熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんなめこ
- ▶福島県 田村市テレワークセンター テラス石森
- ▶東京都渋谷区 Only Free Paper／RE:BIRTH STUDIO
- ▶東京都杉並区 大怪店
- ▶大阪府大阪市 はっち
- ▶岡山県岡山市 ブックランドあきば 岡山高島店／レストラン Mint
- ▶広島県福山市 繋々・tunatuna-

募集中

10年を目標にしたtovoの活動も早いもので、解散まで残り2年半ほどとなりました。残りの期間の中で、たま～に一緒に活動してくれる方をいつでも募集中です。お気軽にご連絡ください。

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

- tovo2011.com
- shop.tovo2011.com
- @tovo2011
- @tovo2011
- @tovo2011
- @tovo2011

【発行】代表：小山田 和正 (email: info@tovo2011.com)
住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

【表紙モデル】わらちゃん(わらふぁーむ)



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol.20 (MAR.2019)



ALWAYS
WITH YOU

【アトリエカヌー竹内さんと作るトヴォの天然藍染2019年版】
10年を目標にしたtovoの活動も、おかげさまで残すところ2年半となりました。5年を過ぎた頃からこのプロジェクトを美しく終わらせる為のプロジェクトを2つ始めました。1つは、あしなが育英会ファシリテーターの育成。そして、もう1つがいくつかの施設に僕たちがやってきた藍染めのプロジェクトを承継することです。今回は、現在、藍染のプロジェクトと一緒に進めている「ほほえみの会」の藤林秀さんのレポートです。

みんなが 藍を 意識した。

藤林 秀
特定非営利活動法人
ほほえみの会 生活支援員



藍染め体験をする藤林さん（左）と、アトリエカヌー竹内さん

「藍染め、藤林さんのところでやってみない？」の電話をもらったのが始まりでした。

みんなが藍に愛着を持つためには

当施設では、障害を持った人の就労支援としてジャガイモや枝豆などを植えています。藍を育てるのは難しくはありませんでしたが、利用者にとって馴染みがありませんでした。そのため、1年目は「藍に愛着を持つ」ことが課題だと感じました。

電話を受けたことを話すと。「藍って何？」

根深い気持ちもありました

「食べられないものを植えるのか…」という気持ちは根深いものでした。農作業をする＝食べ物が収穫できる、という気持ちはあって当然です。農作業の辛さと収穫の喜びを考え

「あ、ジーパンの」「食べれないんでしょ」と矢継ぎ早に質問が飛んできました。誰でも強制されたことより自分の関心があるものの方が意欲がわきます。一つ一つ丁寧に答えつつ「お茶も美味しいらしいよ」「ジーパン作れるかな？」と想像したり、提案したり、いろいろな興味がわくよう会話を持ちました。

ると当然の思いだと感じました。その思いは当然の思いとして、藍を育てる過程を自分で評価してもらえればと思い、自分の中の課題と感じました。

太陽の元育つ藍と、太陽の日差しに項垂れた人間

当然のことながら畑での作業はしんどいものでした。10時から12時、昼休みを挟んで13時から14時半の作業です。夏は「熱中症」が霞みながら雑草を抜き、「熱中症」と霞んだ藍に

触れ、「熱中症」と霞む中鍬で土を耕していました。植えたタイミングや土の状態の関係で枯れたのもありましたが、すくすくと育つ藍もありました。

葉を観察し、花に感動し、種に感謝する

様々な条件の中でも、土に根を生やし藍は育ちました。

綺麗な葉の色を知りました。枯れた部分が茶色でなく青くなるのは、特に感動して、皆で観察しました。

藍の花は小さいけど、儚くも鮮やかなピンク色に目を奪われました。花の奇麗さに気づけたのは、葉の色とのコントラストが奇麗だからこそです。葉を取って乾燥させる時は、これ

までの作業にあまり関わらなかった人も行いました。

種は少し小粒でした。食べられるものは収穫できないけど、種を収穫し次年度への思いを馳せることはできました。「これが大きくなるんだべ」「意外と小さい」等、種に対する感想を聞くことができました。それは紛れもなく、藍に愛着を感じてるからこそその発言だと感じました。

工房を見学したら、ファンが増えた

タイミングを見て竹内さんの工房を見学に行きました。すくもの見学と染める工程を見ました。染める工程では、染料の調子が悪く、うまく染めることができませんでした。個人的

には薄く染まった色味も好きでしたが、竹内さんは納得できない様子で「申し訳ない。今日は調子が悪い」と言い、染める体験はしませんでした。

「それでこそ職人なんだよ」

自分のこだわったものだからこそ妥協はしない。ある利用者はその姿勢に惚れ、力強く話していました。工房にいるときに心を打たれたある利用者は、工房で竹内さんの作品を購

入し、注文をすることも約束しました。藍を通じて知り合った竹内さんに好感を持ち、藍に魅力を感じるきっかけになりました。

みんなの意識に藍がありました

藍を育てるという挑戦は、とても貴重な機会だと感じました。近隣ではあまり聞かない藍を指導してもらいながら育てることができるのは本当にありがたく嬉しい体験でした。と共に、「食べられないものを育てる」という気持ちもありました。夏は大変な思いをする中で、藍の鮮やかさを知り、感動しました。その

過程や竹内さんの職人性に触れる中で少しずつ愛着は沸いてきました。そのきっかけをくれた小山田さんにも感謝です。

たくさんの皆さんに支えられて、当施設での藍の栽培は始まりました。一年目の過程を大切にして、また2年目がスタートします。